

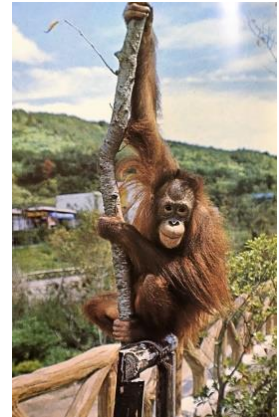
鹿児島市平川動物公園および旧鹿児島市鴨池動物園におけるオランウータン飼育の歴史



(公財) 鹿児島市公園公社 鹿児島市平川動物公園
福守 朗

■はじめに

1916年9月に開園した鹿児島市鴨池動物園(以下、鴨池)が1972年2月に閉園し、同年10月に鹿児島市平川町に移転したのが鹿児島市平川動物公園(以下、平川)である。また国内でオランウータンの飼育例が少ない1916年12月に鴨池では最初の個体を導入した。1964年に再びオランウータンを導入し、その個体は平川に移転後も飼育された。鴨池および平川の両園で少なくとも8個体のオランウータンの飼育に関わったこととなる。現在はボルネオオランウータン1頭(♂・16歳)を飼育中である。

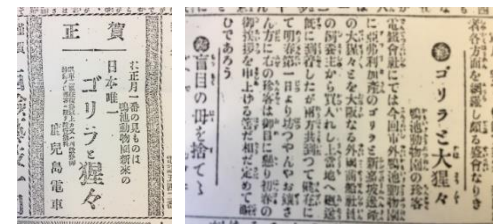
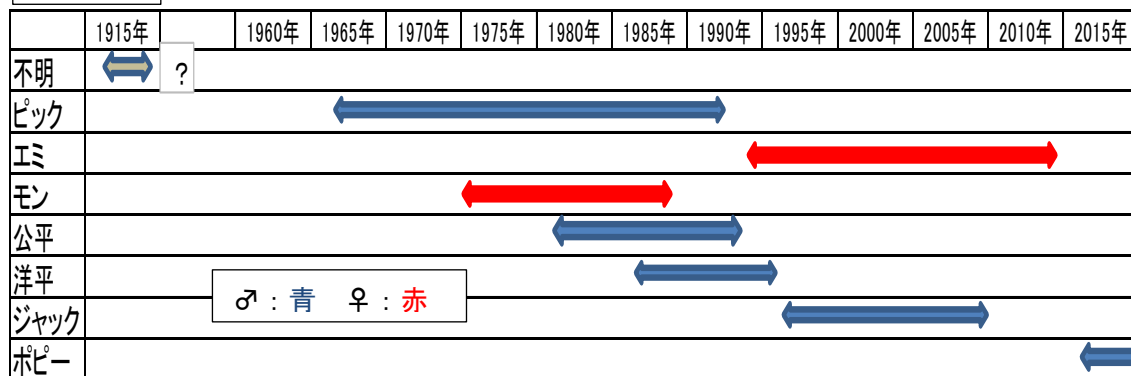


■個体情報

飼育個体一覧		種の表記は B:ボルネオ S:スマトラ H:種間雑種		死亡個体	現存個体								
国内No.	個体名	種	性別	生年月日	出生地	父親	母親	来園年月日	死亡地	死亡年月日	死亡時年齢	死因	備考
なし	不明	?	?	?	野生	?	?	1916年	鴨池	不明	不明	不明	
0007	ピック	S	♂	推定1962	野生 (水島港で保護)	?	?	1964.02.06	平川	1989.06.22	27歳	腎炎 腸炎 心外膜炎 肝種大	BW 160kg
0017	エミ	S	♀	推定1963	野生	?	?	1992.10.07	平川	2012.06.29	49歳	大腸腫瘍	円子→エミ
0040	モン	B	♀	推定1969	野生(佐世保港で保護)	?	?	1973.08.12	平川	1986.01.22	17歳	糖尿病 肺炎 大腸炎	BW 117kg
0060	公平	H	♂	1979.06.21	平川	ピック	モン		平川	1992.01.30	12歳	胃腸炎 腎変性	BW 94kg
0081	洋平	H	♂	1984.05.08	平川	ピック	モン		平川	1994.02.16	9歳	脳出血	
0111	ジャック	S	♂	1988.02.09	プリストルZoo	Jod	Henrietta	1993.03.20	平川	2007.07.01	19歳	熱射病	Kertawa→ジャック
0132	ポピー	B	♂	2000.06.08	多摩動物公園	ボルネオ	チャッピー	2014.03.20					

- ・野生由来4頭、飼育下繁殖4頭
- ・種に関しては
スマトラ3頭 (♂2♀1)
ボルネオ2頭 (♂1♀1)
種間雑種2頭 (♂2♀0)
不明 1頭 (?1)
- ・7頭はすでに死亡
- ・死亡時の平均年齢±SDは22.2歳±13.3
- ・1979年と1984年に繁殖している
- ・繁殖個体はいずれも種間雑種
- ・1916年に導入した際に「大阪の外国商船
社員から^{シンガポール}新嘉坡産を購入」と記載あり

在籍期間



左: 1917.1.1 鹿児島新聞に掲載
右: 1916.12.20 鹿児島新聞に掲載



ピック(1965年頃)



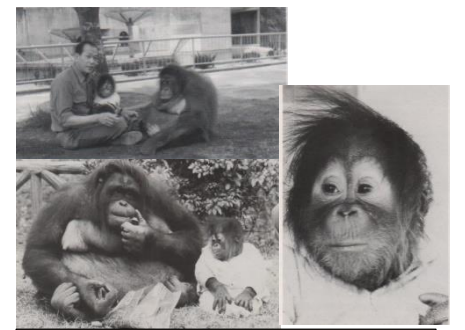
モン(1977年頃)



1978年の当園機関誌より



上: 妊娠中のモン
下: 人工哺育中の公平



介添え哺育を試みるがモンは育児せず
公平は人工哺育となる(1979年)



モンと洋平(1985年)



ジャック(2007年)



エミ(2010年)



ポピー(2014年)

() 内は撮影時期を示す

■まとめ

国内の動物園でオランウータンが最初に飼育されたのは1898年であり、1916年に鴨池で導入された個体は当時の飼育状況を知る上で貴重な事例である。しかし、残された記録が少なく詳細については不明な点が多い。

日本動物園水族館協会は1975年にボルネオ亜種とスマトラ亜種(後に別種として管理)を分けて管理することを提唱しているが1979年・1984年に平川で繁殖した個体は種間雑種であった。1産目は介添え哺育を試みるが人工哺育となった。2産目は育児行動を示している。産子はそれぞれ12歳と9歳と短命で死亡している。各種記録から過去には早でも100kgを超える個体があり、体重および栄養管理が十分でなかった可能性もある。

1992年以降、スマトラオランウータン2頭を導入したものの繁殖には至らなかった。それらの個体が死亡後、20カ月ほどオランウータンの飼育が途絶えた。2014年にボルネオオランウータンを導入し飼育を再開した。現在は♂のみの単性・単独飼育となっている。繁殖可能な♀の導入を目指しているが、国内ではボルネオオランウータンは12施設で33頭(2015年末)と飼育個体自体が少なく、適切な血統管理も困難な中での新規導入は実現していない。今後は国外での動向も視野に入れ、新規個体の導入に向け情報収集に努めたい。